

GAKUIN CAMPUS LETTER

学院キャンパスだより 15

Contents

八戸大学

第3回産業官民コミュニティ全国大会開催
北東北大学野球1部リーグ戦優勝

八戸短期大学

ライフデザイン学科 三沢空港施設見学

社団法人八戸青年会議所50周年

記念事業「市民の夕べ」教員と学生30名参加

光星学院高等学校専攻科

これからの介護につながる研修旅行

光星学院高等学校

2009年プロ野球ドラフト会議

ソフトバンクが下沖勇樹投手を3位指名

PTAあいさつ運動

部活動生奉仕活動

野辺地西高校

祇園祭「燃える本能寺」野辺地町を練り歩く

サッカー部東北プリンスリーグ昇格



経営ビジネスセミナー開催



（財）八戸地域高度技術振興センターと総合研究所共催による「経営ビジネスセミナー」が9月4日(金)と9月25日(金)に開催された。セミナーは研究所市内オフィスにおいて開催。昨年に引き続き経営の革新・業務改善や新規事業の展開などに取り組もうとする経営者・管理職等を対象とし参加者を募集、述べ26名が参加した。



9月4日のセミナーでは、ビジネス学部長の丹羽浩正教授が本セミナー開催にあたり挨拶を行い、その後、ビジネス学部バリー・グロスマン准教授が「職場でのラフターヨガ活用法」をテーマに講演を行った。職場などで感じるストレス解消に、笑うだけで効果のあるラフターヨガ

を活用していきましょう、といったもので、参加者はラフターヨガの効果や体と精神のバランスについて説明を受け、その後実際に45分間体を動かし体験した。大いに笑いまだストレッチで体をほぐした後は参加者から一様に笑みがこぼれ、終了時にはリラックスできたという声が多くきかれた。

9月25日のセミナーでは、ビジネス学部長丹羽浩正教授が講師を務め「企業と個人のキャリア開発」をテーマに講座を行った。仕事と労働の違い、目標が人を創ること、キャリアコンサルティングなどの内容で、特にセミナー途中に資料として流した映画「てんびんの詩」は、“仕事とは何か”を考えるきっかけとなったと参加者から好評を得た。その後、（財）八戸地域高度技術振興センター阿部孝悦専務理事による閉会の挨拶で会を終了。

場所を移して行われた懇親会では、参加者がセミナーの感想や今後のセミナーへの要望など積極的に意見を交換し、発展的な交流の場となった。

青森県立図書館との連携・協力に関する協定締結について

青森県立図書館より、平成19年3月に県内の大学図書館との連携・協力を行いたいとの相談があった。県立図書館では、平成19年度より、県内の産業支援・雇用支援を行うための行政支援サービスを開始しているが、県立図書館の蔵書だけでは不十分であり、大学図書館と連携することによって提供できる専門資料を増やしたいと考えているとのことであった。

そこで、本館では、「青森県高等教育機関図書館協議会」の平成20年度総会の開催を担当することになっていたため、平成20年7月に開催された第14回総会に提案した。その結果、加盟各大学図書館と県立図書館との間で、個別に協議しながら進めていくことで合意がなされた。

その合意を受け、平成21年2月26日に本館と県立図書館との連携実現に向けての具体的な内容について、最終的な協議を行い、連携・協力を行うことで合意し

た。その後、県立図書館側では各大学図書館との連携・協力の実現に向け、OPACの横断検索や貸出図書大学図書館返却サービス等の実務・運用面での整備を進めてきた。

平成21年度に入り、再度連携・協力の内容についての確認および協定書の書式や文面について協議・確認がなされ、10月1日からの正式な連携・協定の実施に向け、9月28日(月)に県立図書館より企画支援課主幹の渡部泰雄氏が『八戸大学・八戸短期大学図書館と青森県立図書館の連携・協力に関する協定書』を持って本館に来館され、前山総一郎館長が本館の館長印を押印し、正式に両者の協定が締結された。

この度の連携・協力により、県立図書館側には従来の蔵書検索に加えて、本館



のOPAC（蔵書目録）も一括検索できる横断検索機能が追加されている。今後は、図書館職員の相互研修や相互講師依頼、一般市民を対象とした本館の公開講座等の県立図書館での開催、関連資料の展示・貸出等についても実施したいと考えている。

第3回 産学官民コミュニティ全国大会 in あおもり

9月26日(土)に弘前大学を会場に開催された「第3回産学官民コミュニティ全国大会 in あおもり」の分科会で、総合研究所早川幸久主任所員が「起業家養成講



座の紹介～10年で100人の起業家を青森から～」と題して発表した。

産学官民コミュニティ全国大会は業種や分野、所属や肩書き、国・地域を超えフラットな関係でコミュニケーションを深め知の創発やイノベーション創出に結びつける場として平成19年から開催。岩手、大阪に次ぐ開催となった弘前には青森県内や岩手県、遠くは広島、京都、大阪などから約270人が参加した。弘前大学学長遠藤正彦氏による基調講演のあと、文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課長柳孝氏の「産学官連携の現状と今

後の展望」、また経済産業省経済産業政策局地域経済産業グループ地域経済産業政策課長滝本徹氏による「地域経済の活性化策について」の講演などが行われた。

その後行われた分科会では5会場にわかれ、ものづくりや生涯学習など産学官民の連携事例を発表。早川幸久主任所員は、総合研究所の紹介や起業家養成講座の具体的な内容、今後の課題などを説明した。

分科会後には約200人参加の大交流会が行われ、所属や肩書きを超えた交流が行われた。

教員免許更新講習行われる

教員の資質向上を目的に、平成21年度から始まった教員免許更新制度を受けて、本学でも8月3日(月)から7日間の日程で講習を開催した。この制度は教員免許の有効期間を10年間とし、更新時には2年間で30時間以上の講習受講を義務づけるもので、講習は文部科学省の認定を受けた大学が実施、県内では本学のほかに弘前大学等で開催されている。

青森県南はもとより岩手県北をも含めたこの地域で、最も多くの種別の教員免許課程を有する高等教育機関として、昨年度より制度の詳細や他大学の対応などの情報収集に取り組み、講習開催の準備を進めてきた。また、本年5月には「地域の教員のニーズに応え、講習の円滑な実施と各種相談への対応」を目的に、八

戸大・八戸短大総合研究所内に教員免許更新講習支援室を開設し、制度に関する説明や講習に係る問い合わせなどに応じてきた。

講習初日となった8月3日(月)は現役教員を中心に137名が参加、30時間のうちの12時間分となる必修講習「教育の最新事情」を受講した。この講習は1日6時間、2日間の日程で行われ「教職についての省察」、「教育政策の動向についての理解」、「子どもの変化についての理解」及び「学校の内外での連携協力についての理解」の4分野を学ぶものである。当日は、朝9時からの受付開始を多くの受講者が待つほどの状況で、講習に対する意気込みや熱心さが感じられた。

青森県教育委員会によると、平成21年

度の県内の対象者(平成22年度末で35歳、45歳、55歳となる教員)は1,088名、うち八戸地区での受講希望者は350名余で弘前地区に次いで高い数字となっている。本学としてはそのニーズに応えるべく、必修1講習及び選択10講習を開講、のべ462名の先生方が受講した。今回の講習では定員充足により申し込みをお断りした講習もあったことから、今年度2回目の講習として来年1月にも開催するため、現在準備を進めている。



「八戸大学」OB&OG訪問 part15



生ラムジギスカン「林檎家」店主 野坂貴也さん

プロフィール

青森商業高校・八戸大学商学部卒(1回生)。卒業後は民間企業を経て、2004年に生ラムジギスカン「林檎家」(青森市)を開業。

Q: 学生時代の思い出を聞かせてください。

A: 当時の仲間と硬式野球部を作ったことです。現在ほど強くありませんでしたが、仲間と共に楽しく活動していました。

Q: 現在のお店を開くきっかけは?

A: もともと好きだったからです。知人のジギスカン店開業を手伝ったとき、「これなら自分にも出来る!」と思ったことがきっかけでした。現在ではお客様も定着し、週末は満席になります。

Q: 商売をしていて大事にしていることはなんですか?

A: 人を大事にすることです。いつも来てくださるお客様、お世話になっている取引先、一緒に仕事をしている従業員の皆さんなど、人あってのこの店・私自身だと思っています。

Q: 在学生へメッセージをどうぞ

A: 私は、今の仕事をしていて大変ですが充実していると思っています。ただ、自分のやりたいことに時間が取れなくなったり足りなくなったりしています。今一番欲しいと思うものは「時間」なんです。もっとやりたいことがあります。学生時代は、勉強でも遊びでもいろんなことに挑戦できる時期。皆さんには、今の「時間」を大切にしてほしいと思います。

平成21年度

父母と教職員の懇談会

平成21年度の八戸大学父母の会「父母と教職員の懇談会」が、11月1日八戸大学会館で開催され、約40名の父母が参加した。

家口和夫父母の会会長の挨拶では、大学や学生の地域貢献についての話しや父母の会の活動方針・内容等について説明がされた。続いて鈴木宏一八戸大学学長が挨拶し、八戸大学を取り巻く状況や重点的に取り組んでいる課題等について説明がされた。

就職セミナーでは、株式会社文化放送キャリアパートナーズの岡田航三取締役学生支援部長が「子どもの就職を成功さ

せる親、失敗させる親」と題して講演、子どもの就職活動に対する親の役割について、学生時代に就職活動をするものの大切さについて、実際例を交えながらの話しで、参加者は熱心にメモをとりながら話を聞いていた。

「ビジネス・健康マイスター」の称号付与式に続き、学部説明会が学部ごとに分かれて行われ、学部長による学部の特色ある教育についての説明や、教務部・学生部・就職支援部の説明が行われた。

個人面談では、ゼミ担当教員が春学期末までの成績や部活動の状況・ゼミでの様子を父母に説明した。面談した父母は、



大学での学生の様子を知ることができ、満足した様子だった。

懇談会は大学の状況を知り、また父母と教員が面談を行う1年に1度の機会なので、多くの父母の方々に参加していただけよう、今後内容を充実させていきたい。

8月29日(土)・30日(日)に産業・組織心理学会第25回大会が、古牧温泉青森屋を会場に北東北では初めて開催された。ビジネス学部長である丹羽浩正教授が、八戸大学が来年30周年の節目を迎えることから第25回記念大会の主催校を受託、第25回大会委員長を務めた。

学会には全国各地から延べ300名を超える学会員が参加し、4つのシンポジウムと全49の分科会、会員総会、懇親会を行った。シンポジウムでは、「これからの雇用と働き方への提言」をテーマに労働経済ジャーナリストの小林美希子氏による基調講演、シンポジストにNPO「カタリバ」代表今村久美氏、八戸大学客員教授大谷真樹氏、日本銀行青森支店長鶴海誠一氏、コメンテーターに明治大学名誉教授山田雄一氏を迎え討論。

北東北初！産業・組織心理学会第25回大会開催

また「看護師のワーク・ライフ・バランス」のテーマでは、基調講演に青森県立保健大学副学長上泉和子氏、パネリストに日本看護協会常任理事小川忍氏、名古屋第二日赤看護部長片岡笑美子氏、三戸中央病院主任看護師壬生夕子氏、コメンテーターに名古屋大学教授金井篤子氏を迎え、看護師の生活と仕事のバランスの問題点などについて討論。両シンポジウムは一般公開とあり北東北を中心に一般の方々も多数聴講された。

会員総会後の懇親会には約100名の会員が参加。第25回大会委員長である丹羽浩正教授と本学会員である人間健康学部深澤伸幸教授が御礼の挨拶を述べた。

今学会開催に当たり、八戸大・八短大の教職員、学生ら19名もスタッフとして参加、八戸大学と青森県を全国の学会員に大いにアピールし記念大会を成功裏に終えた。



女子バスケットボール部 2部トーナメント 準優勝！

バスケットボール女子は先月行われた2部トーナメントで、決勝戦の弘前大学に、66対67で負け、準優勝という結果に終わった。この大会では優勝すれば一部の入れ替え戦に出場できるというだけ



あって、選手の思い入れは大きい大会であった。しかし、その気持ちが裏目に出てしまい、一回戦から苦しい試合となり、二回戦ではまさかの三点差という危ない試合展開であった。その雰囲気のまま、決勝戦では第3クォーターまで勝っていたにも関わらず、第4クォーターで逆転され、一点差で負けるという結果に終わった。練習不足をどこかで感じていた部分もあり、それが不安となり、チームの自滅へ繋がったと思われる。しかし、試合後のミーティングで、自分たちは追う立場であることを再認識し、今後の練習に臨むことを決めた。課題である、



ディフェンスの甘さ、高さでの弱さを改善する為の練習が今後できれば、来年の同大会では、結果が見えてくることであろう。

奪

還

北東北大学野球 1 部リーグ

優

勝

藤木監督が2009年のスローガンとして選手たちに宣言したのは、「奪還」である。三期連続でリーグ戦の優勝を逃し、今年こそと掲げたスローガンだった。春季リーグ戦ではまたしても2位という結果に終わった。この悔しさをバネにオフ返上で練習をし、8月22日からの秋季リーグ戦に挑んだ。第4週までは順調に勝ち、8連勝で最終週富士大学戦を迎えた。二試合のうちひとつ勝つか、引き分ければ優勝、という状況の中戦ったが2連敗で

プレーオフに連れ込んでしまった。プレーオフの相手は富士大学、お互い8勝2敗同士の対決となった。前半から点の取りあいとなり、7回に4点を取り逆転したが9回に追いつかれた。その後のピンチを凌ぎ9回裏の攻撃に繋がった。同点で迎えた攻撃もあっさりツーアウト延長戦かと誰もが予想していた瞬間、相手のミスから1点を追加し、奇跡のサヨナラ勝ちで2年ぶり5回目のリーグ戦優勝を決めた。



サッカー部

天皇杯に出場



都道府県大会を含めると六千近くのチームが参加する本大会は、国内の最高峰の大会であり、プロとアマが対戦し、元旦の決勝戦を目指して熱戦と数々のドラマを目にすることが期待される大会である。

今年からは二回戦からJ1チームとの対戦が組まれており、一回戦を突破すると京都パープルサンガとの対戦ができるため、本学の選手も例年以上に盛り上がりがあった。

さて、昨年の屈辱を果たすために臨ん

だ天皇杯青森県大会の決勝戦では一対〇で青森山田高校に辛勝し、二年ぶり八回目の優勝を飾った。

全国大会の一回戦は栃木県代表のヴェルフェタかはら那須との対戦となり、前半は試合巧者である相手チームのペースで試合が進み一瞬の隙で相手に先取点を奪われ追う展開となった。後半は一進一退の試合展開であったが、徐々に体力が落ちた相手から終了間際に本学が同点に追いつき延長に繋がる試合となった。延長戦では体力的に勝る本学が決勝点を奪い優位に試合を進めたが、守備の甘さから相手に逆転を許し、最終的には三対四で敗戦した。今大会では、守備の組織に課題が浮き彫りとなったが、全力を尽くし戦う選手の姿には感銘を

受けた。年々盛り上がる天皇杯では強化するチームも増えているが、常にチャレンジ精神を忘れることなく、これまでの経験と実績を生かし、更に前進して参りたいと思います。

結びに今大会では、法人関係者をはじめ多くの皆様にご支援・ご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。





秋 桜 祭



八大 Revolution! ～ Let's make waves ～

10月31日(土)・11月1日(日)に第29回八戸大学秋桜祭が開催された。今年のテーマは『八大 Revolution! ～ Let's make waves ～』。今までより活気ある学園祭にし、これを皮切りに八大をさらに発展させていこうという意味が込められ、その意気込みから、3年生を中心とした大学祭実行委員会が結成され、模擬店広場、研究展示体験コーナー、体育館ステージイベントの充実の他、後夜祭を企画した。総合実習館前の模擬店広場では、焼きそば・焼き鳥・たこ焼きなどこれぞ模擬店!!と言う物から、ちゃんこ鍋・せん

べい汁・いかひつつみなど汁物まで充実。総合実習館では、様々な研究展示、体験コーナーが設置され、日ごろ学生達がゼミなどで研究している内容を展示、実演した。

ステージイベントでは、本学のPR曲を作っていただいた「KEY stone」によるライブがおこなわれ、その曲を初披露、多くのお客様より暖かい声援をいただいた。また、本学のダンスサークル brith、軽音楽部も負けじと熱いステージで会場を盛り上げた。

その他にも同日に開催された、2009

オープンキャンパス、父母の会、第2回青森から「介護従事者・家族介護者のための公開講座」、第4回家庭で作れる八戸前沖さば料理教室が行われるなど、内外問わず連日多くの人で賑わいをみせた。

学祭終了後行われた後夜祭では、教職員約120名が体育館に集合し、軽音楽部ライブ、ダンスサークルによるステージ発表、ビンゴ大会など行われ、午後7時には40発の色とりどりの花火が打ち上げられ、秋の夜空に輝く大輪の花に学生達の大きな歓声と拍手が沸き起こっていた。



Column

ハイ、こちら総研です。

湯のみとインフルエンザとグローバル化

「あっ、それはとても大事なものですから注意して」と言ったら、何事もないかの如く「充分保険には入っているから」という返事が返ってきた。

もう30年以上前になるが、ニューヨークからサンフランシスコに引っ越すことになった。業者が来て荷物の梱包を始めた。家内が大切にしていた深川の陶器。何の変哲のない会話だが、文化の違いを考えさせられた。

日本人は大事なものは壊さないという前提に立って物事を考えがちだ。子どもにもそう教育する。日本人以外は「モノは壊れる」という前提に立って論理を構成する。だから保険も古くから発達した。この意識の差が、大げさだが、日本を特異な存在にしている。モノは壊れるから保険をかける。インフルエンザから逃げ切りたいけど難しいから予防をし、治療体制を事前にととのえる。人の数だけ考え方、意見、価値観等が違い、これがいさかいのもと。いくら仲良くしようと心がけても、

隣人とのトラブルも往々にしてある。だから警察があり司法制度がある。それ以前に自分で身を守る工夫を考える。

分かり切った話だが、日本では事故の後で保険のことを思い出す。何故かインフルエンザ対策はモタモタし、何万人も患者が出ても何時予防注射が受けられるか安心できない。対応策をマニュアル化すれば良いのに、学習能力・危機管理能力が不十分に見える。

かつてケネディ大統領は言った。「内政の間違ひは謝ればすむが、外交の間違ひは「生き死にの問題だ」と。これほど国内問題と国際社会の厳しさは異なる。国際社会には110番しても誰も来ない。国連も国際司法裁判所も安全保障条約も直ぐの助けにはならない。ところが、誰も日本を攻めないんだという暗黙の前提が我々の心中にどっかと座っている。

災害対策体制の立ち上げは随分改善された。しかし平時に事件・事故・災害等を想定し、対応選択肢を複数用意した模擬訓練をやっている話は僅かしか聞かない。何が

我々の生活にそして国にとって優先事項か考えていない証拠。例えば北朝鮮の状況を見ると、先般の飛翔物体対応のドタバタ劇や、無いとは言えない放射能汚染可能性も含めた対応方法、呼応に必要な民間と関係機関の動き方等々に対する事前検討・調整に始まり訓練がそれに近いものが必要な時代ではないだろうか。

ボウリングでピンがカーンと跳ねる快感。人間は共通して「壊す」ということに欲望と快感を感じる。それを制御するのが理性である。湯のみは割れるけれど割らないように心掛け保険も掛ける、インフルエンザはかかるかも知れないが予防措置と流行時の対応をきめる。いさかいは国内外を問わず起きうるもの。企業のグローバル化だけでなく、フツーの我々も日常の意識や論理構成を変えないと本当のグローバル化にはならない。

(総合研究所副所長 坂下 允章)



平成21年10月8日(木)、ライフデザイン学科1年の講義「旅行業法」「旅行実務Ⅰ」で、三沢空港の施設見学が行われた。この講義では、三八五観光株式会社小林一光氏が非常勤講師として担当している



三 沢 空 港

施設見学を実施



科目であり、社団法人全国旅行業協会「国内旅行業務取扱管理者試験」の合格を目指し学習をしている。

この日は、台風18号の影響で三沢空港の搭乗受付では、利用客の対応に追われていた。その中で三沢空港に着いた学生たちが最初に見学したのは到着ロビー。利用客が飛行機から降りてきて荷物を受け取る場所だと説明を受けた。続いて事務室内を見学。日頃見ることのない事務室に入った学生たち。受付ロビーとは異なる裏方の仕事に耳を傾けていた。外国の利用客が多いため、受付ロビー担当者はTOEIC700点以上が必須になっていることを知った学生たちは驚い



ていた。最後に見学したのが貨物倉庫。飛行機によっては重さが決められているため、荷物を一括して量る機械に学生たちが全員乗り、その重さを体験した。短い時間ではあったが、学生たちは有意義な時間を過ごしたようである。

父 母 の 会 で 親 睦 を 図 る

平成21年10月25日(日)に八戸プラザホテルアーバンホールにおいて、平成21年度父母の会が開催され、約50名の父母が参加した。この父母の会は、八戸短期大学父母の会が主催しており、毎年1回八戸市を会場として、教職員と父母の親睦を図ると共に、高等教育機関としての取り組み状況、学生の学生生活状況、成績状況等を参加した父母の方々にお知らせする機会として位置付けている。

学長挨拶、石沢正彦新会長からの挨拶を皮切りに会が進行された。報告事項で

は、教務委員会、学生委員会、就職支援委員会から取組や活動状況等が報告され、履修登録に関する説明、試験に関する説明、4月に行われた宿泊研修の報告、就職活動に関する就職支援計画(就職ガイダンス)の取組み、夏期資格講座の結果報告など、参加者は熱心に耳を傾けていた。特に教務委員会から試験期間内でのアルバイトに関し、説明と父母に対してのお願い、学生委員会から宿泊研修に関する報告や全学科1年生の約178人が参加した八戸小唄流し踊りの報告、就職支援委員会から就職活動に関するお願いが報告された。

学科ごとに行われた学科紹介では、各学科長より学科の取り組み状況や教員紹介等が行われ、個人面談を行った。個人面談では、ゼミ担当者の教員が前期までの成績や学生生活の状況、ゼミ活動の様子などを父母に説明。普段知ることができない短期大学での様子を知った父母は、満足した様



子であり、有意義な時間となったようである。

父母の会事務局では、年1回の主催となるため、もっと多くの父母が参加していただけるよう、各学科の特色を出せる内容を充実していきたいとしている。



南部道楽 フェスティバル 2009

幼児保育学科の 学生が参加

9月26日(土)、27日(日)の二日間の日程で「南部道楽フェスティバル2009」が、八戸市中心街と市役所前広場で盛大に開催され、幼児保育学科の学生が「道楽パレード」に任意参加した。

フェスティバル初日の26日(土)は、廿三日町から三日町に掛けた通りで「道楽パレード」が行われ、昨年度同様、日本舞踊「泉彩葉」社中の子供たち30名の後に、幼児保育学科1年生の51名が続いき踊りを披露した。学生たちは10時30分に三日町に集合し、泉彩葉氏のご協力をいただき着付けを行った。浴衣に慣れない学生たちは、浴衣を着るために一苦労。浴衣

を身に着けるまでに担当した泉彩葉氏のお弟子さん3名と教職員3名が学生たちを分担し、約1時間で着付けを終わらせ、12時からの「道楽パレード」に参加し、「八戸小唄流し踊り」を披露。7月16日(金)以来の踊り、ではあったが、沿道で踊りを見ていた方々から盛大な拍手をいただき、学生たちも満足のいく踊りが出来たようである。学生たちは場所を市役所前広場に移し、泉彩葉氏の社中と共に特設会場のステージ上で短期大学の紹介と10月31日(土)～11月1日(日)に開催される学生祭の宣伝を行い、一般市民の方々にアピールを行った。

光 華 祭

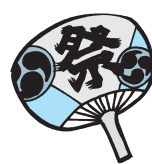
平成21年10月31日(土)と11月1日(日)の2日間にわたり、第39回八戸短期大学「光華祭」が盛大に開催された。今年度は、光華祭に取り組んだ一日一日を今後の人生に生かして欲しいという思いを込め「One day One Life」というテーマを掲げ、学生祭実行委員会を中心に約2ヶ月間にわたり準備をしてきた。

「光華祭」の内容は、各学科の特徴を出した学科企画、ゼミナール単位で運営した模擬店、附属幼稚園や一般企業などによる展示とサークル・ゼミナール単位で運営したステージ企画という内容であった。学科企画では、子ども百貨店、ピアノコンサート、造形気球、ニューススポーツ体験、デジカメ印刷工房の他に今年度から新たに親子料理教室、ネイル

アート体験、妊婦&老人疑似体験、メタボ予防身体測定、ナース服で写真撮影、手洗い体験を企画。特に「こども百貨店」では、お買い物ゲーム、造形制作や巨大迷路を取り入れたアイデアあふれる企画を揃え、子どもたちから大人気。「親子料理教室」では、簡単に作れるお菓子を親子で楽しく作った。「ネイル体験」では、美容関係の講義を履修していた学生達はその腕前を披露し、列が出来るほどの盛況ぶり。ゼミナール単位で運営した模擬店では15店舗が参加。焼きそば、たこ焼き、お好み焼き、唐揚げ、豚汁、アイスクリームやジュースなどの模擬店が揃い、学生達が競って腕を振っていた。FMラジオ局を運営したライフデザイン学科の学生達は、その様子を随時放

送。映像も短大から総合実習館のテレビに流すなど、大学と短大の学生祭を盛り上げていた。ステージ企画では、アンパンマンショー、ウィンドアンサンブルコンサート、ゼミナール発表やチアリーディングARROWSと光星学院高等学校チアリーディングLUSTERSとのコラボステージ発表などを沢山盛り込み、親子連れでも楽しめる企画を幾つも揃えた。

今年度の来場者数は1,255名。新型インフルエンザの流行により、来場者数は減少したと思われるが、来場して下さったお客様が笑顔で帰っていただけよう、学生たちは精一杯のおもてなしをし、満足のいく学生祭を終えることができた。



就職活動を有利に！ 夏期資格取得講座

去る8月24日(月)から9月4日(金)まで、2週間に渡り、「夏期資格取得講座」が就職支援委員会の主催で実施された。これは、学生の就職活動が少しでも有利になるように、毎年実施されているものである。

今回は、「ITパスポート試験」、「日商PC検定(文書作成)2級・3級」、「医療事務検定2級(学期中の授業科目を受けている学生対象)」など、全部で9講座が開講された。但し今回は、例年100名以上の受講者を確保しているのに、昨年の金融危機以降景気が低迷している影響で、学生が夏期休業中に就職試験受験

のほうを優先したせいか、受講者は短大生中心に延べ60名弱にとどまった。

夏期講座終了後、検定試験が、主催者団体毎に順次行われている。最近行われた検定では、「日商PC検定試験(文書作成)2級」に、短大1年生1名が合格した。夏期講座を受けた学生は、各検定試験まで気を抜かず勉強を続けて、是非合格して欲しい。

この他に、就職支援課では「医療事務検定2級(授業科目を受けていない学生対象)」講座を「ニチイ学館」の協力を得て8月1日～22日まで集中講座で実施し、大学生・短大生併せて17名が受講し

た。こちらも既に8名の合格者を出している。

就職支援委員会では、現在、次の春期休業中に実施する資格取得講座を計画中である。



市民の夕べに参加

平成21年9月6日(日)に社団法人八戸青年会議所50周年記念事業「市民の夕べ」が八戸市公会堂にて盛大に行われた。この「市民の夕べ」に八戸短期大学の教員と幼児保育学科約30名が参加した。

10時から14時の時間では、展示室において、なつかしの「はちのへ」おもひでの昭和と題し、昭和の暮らしをパネルとブースで体験ができるようにしていた。ライフデザイン学科三浦文恵准教授が紙芝居のブースで読み聞かせを行った。その他、昔の茶の間、写真展示、昔のあそびや無料試食コーナーを設け、紫穀米、あずきぱっと、豆しとぎなどが用意され、市民の方が思い出の一品を頬張っていた。14時から15時35分の時間では、大ホールにて「誇りと絆」映像発信&トークセッションが行われ、内海隆副学長がコーディネーターとして参加した。この映像発信&トークセッションでは、教科書には載っていないが是非知って欲しい八戸の偉人、先人から私たちへ続く物語など、新たな八戸の物語が熱く語られた。15時45分から16時30分の時間では、市民コンサート「未来へ届け！私たちの詩」が行われ、「刹那」+「鈴木彩乃」ライブの他、「市民の詩(うた)」が発表された。最後に幼児保育学科の学生が八戸文化幼稚園、柏崎小学校合唱部、のぞみ会舞踊クラブ、八戸市民お母さんコーラス、陽盟大学コールシャンテの皆さんと共に



ステージに立ち、市民から街に対する300遍の詩に曲を付け、「僕らの街」「未来(そら)へ」の2曲に生まれ変わり発表された。幼児保育学科の学生たちはコンサートに向け、学内や各団体の皆さんと合同の練習を重ね、素晴らしい歌声を披露していた。



光星学院高校専攻科

10月1日から3日まで研修旅行をしました。

国際福祉機器展や盲老人ホームの見学が主な研修コースでした。

また、東京都内自主研修やディズニーランドも含め2泊3日の旅行でした。

東京ビッグサイトで行われた国際福祉機器展では、日本国内だけでなく海外からの出展もあり、福祉用具・機器などの最先端技術を見ることができました。

私は主に移動や移乗に関わる機器の見



これからの介護につながる 研修旅行

学しましたが、機能的で安全性も高く、かつ利用者様の残存機能をフルに引き出していく工夫など、技術の高さに感心しました。

盲老人ホーム「曙荘」では、理事長自らがお忙しい中、介護させていただく際の心得などをお話くださり、その後施設内の見学をしました。視覚障害の方が聴覚・触覚などで理解できる工夫が多く見られました。

手拍子により時刻を知らせる時計や、触れることで現在の位置が確認できる手すりの表示などです。

また、利用者様が発案し活用されている部分もあり、高齢視覚障害者様の安全



とプライバシーが確保された快適な環境の中で過ごすことができると感じました。

これから介護に携わる私たちにとって、この研修旅行の体験を利用者様の明るく楽しい豊かな生活につながるように活かしていきたいと思います。

真鯛を釣り上げる！

陸奥湾の真鯛釣りは5、6年前から脚光を浴びている。なにしろ、釣り人なら一度は釣ってみたいと思う真鯛が比較的簡単に、しかも70～80cmの大型がライトタックルで狙えるのだから。

日本海の深場で冬を過ごした真鯛たちは暖流と共に北上し、その一部が陸奥湾内に産卵に来るといわれている。ご存じのように陸奥湾はホタテの養殖が盛んであり、その周りに付着する貝等で餌も豊富な為5月の下旬頃より真鯛の便りが聞こえはじめる。釣り方も比較的簡単で、

ルアーロッドにジグを付けそれに餌であるイソメを何匹かつけて投げるといもので、潮、水温等タイミングさえあれば比較的簡単に釣り上げることができる。

本同好会も陸奥湾の真鯛釣りに挑戦している。最初の釣行は昨年7月。学生6名の参加で出かけた。

釣果は船中真鯛4枚、シイラ2匹、カレイ、ふぐ等であったが全員ゲットとはなかった。今年は去年の経験を活かし今度こそはと意気込んだが釣果はい



まひとつであった。それでも形をみることでできほっとしている。全員ゲットを目指し今後も挑戦したいと学生達は張り切っている。



介護技術講習会の趣旨は、介護福祉士の質の向上を図るため平成17年度から制度化され、本校でも開催は5年目となります。

10月17日(土)18日(日)24日(土)25日(日)の4日間に、40名定員の平成21年度最後の介護技術講習会が行なわれました。

この介護技術講習会で修了認定を受け

介護技術講習会

ると実技試験が3年間免除され、筆記試験だけを受験することになります。

そのため、受講希望者が多く遠くは岩手県宮古市や秋田県からで、その背景は福祉系高校生や実務経験者という幅広い年齢になりました。

受講態度は、とても熱心でアンケートには、日々の業務に追われ自己を振り返る機会もなかったが講習会で学んだ利用者主体の温かい介護を今後のサービスに生かしていきたいと再認識したようでした。

介護技術の基礎、特にICFの考え方や介護過程の展開で根拠のある介護サー

ビスを目指し、介護現場で有意な人材と成り得よう、また、私たち指導者が鋭意努力して受講生の質の向上に努めていきたいと考えています。



懐かしい
顔 顔 顔

同窓会総会開催



9月12日(土)懐かしき学舎、光星学院高等学校に同窓生が多数来校した。本会は二部構成で行われ、第一部は本校校舎で行われた。受付を済ませた同窓生は総会開始まで、思い思いに校舎内を見学した。予定されていたスチューデントプラザでのアトラクションは悪天候のため叶わなかったが、地域で演奏活動をしている

同窓生の小比類巻としこ氏によるオカリナ演奏、東北大会三連覇のチアリーディング部「LUSTERS」による演技、県大会金賞獲得の吹奏楽部の演奏が体育館で行われ、同窓生達は彼らの演技に酔いしれた。

第二部では八戸プラザホテルアーバンホールに場を移し、中村覚理事長ほか多数のご来賓出席のもと、恒例の総会懇親会が行われた。法官新一校長は、冒頭の祝辞で、同窓生のアルパジョン代表取締役である松坂氏の講演会の様子、それを聞いての生徒の感想を紹介した。参加した同窓生は思

い出話に花を咲かせ、懐かしい出会いで多くのエネルギーを得、明日からの活力にしている様子であった。



P T A 研修旅行

9月13日(日)P T A研修旅行が秋田県角館武家屋敷とたざわこ芸術村で実施された。参加者はまず、バス車内で資料をもとに今回の研修の歴史を学習した。

現地に着くとバスガイドの案内に従って武家屋敷を散策。南北にのびる黒塀、曲がり屋づくりの母屋、樹齢800年近い巨木などにより、江戸時代から続く風情を堪能することができた。また、たざわこ芸術村では「舞子の蔵」という和風ミュージカルを鑑賞した。「舞子の蔵」は大正末期から終戦にかけての激動の時代を女優として生きようとした酒屋造り

の娘の物語である。参加者からは「武家屋敷に興味を持つことができ、今度は時間をかけてじっくり見学したい」「ミュージカルでは主人公の生き方に感動した」などの意見が寄せられ、視野を広げることができた研修旅行であった。





高校生のための講演会

何をしたいのか？と悩み、海外で生活をしていたこと、そこで将来像を確認できたことなどの実体験を交えながら話をされた。講演の最後は、趣味の植物の花の写真の話であった。これは生徒を植物の蕾に例え、どんな植物も最後は綺麗な花を咲かせるという『可能性』への

メッセージが込められていると感じた。

また、「高校生のための講演会」の前後に、八戸短期大学の三浦文恵先生、盲目のギターリストの板橋かずゆき氏による講演会を実施した。『きっかけ』と『チャンス』、そして『感謝』。この言葉に、将来への可能性が秘められている。

9月16日、東洋学園大学学長である一ノ渡尚道先生を講師にお招きし、「高校生のための講演会」を実施した。

東京都にある東洋学園大学は、学生のスキルアップ講座の1つとして、青森県・津軽での農業体験等により学生の可能性を広げる講座を開催している。今回の講演会においても、全校生徒777人の生徒に対し『可能性に挑戦しよう』というテーマで約1時間ほどの講演をされた。一ノ渡尚道先生ご自身の若い頃、自分は



夢へ向かって

硬式野球部 下 沖 勇 樹



彼は小学校4年生の時に野球を始め、地元の中学校へ進学し、軟式野球部に入った。3年生の時にはエースとして全国大会で優勝した。その後部活動の仲間に、一緒に地元の高校へ進学しようと誘われるが、甲子園、プロという夢を叶えるため、惜別の思いを胸に光星学院高校へ入学した。

高校1年生の春の地区大会で、5回参

考ながら、ノーヒットノーランを達成するという鮮烈のデビューを飾ったが、その後は青森山田高校に3期連続で敗退し、辛い時期を経験した。2年生の秋に主将となり、ついに青森山田高校に勝利し、県大会で優勝した。続く東北大会でも、ライバルである花巻東高校の菊池雄星投手に投げ勝ち優勝し、学校創立初の明治神宮大会や、選抜甲子園出場も果たした。

しかし、優勝候補と言われ臨んだ最後の大会では、ベスト8で敗退し、念願の夏の甲子園出場は果たすことができなかった。

「小さい頃からプロ野球選手になることが夢でした。」普段は明るく元気だが、野球の話になると、一転して真面目で頼もしい表情になる。引退した後も練習を欠かすことはなく、自分の目指すべきところが見えているようだ。彼がテレビで活躍する姿を見られる日も遠くないだろう。



光星祭大盛況！



去る10月17日(土)、18日(日)の二日間の日程で、光星祭が開催された。一昨日、八戸市の景観賞「まちなみ部門」を受賞した赤褐色の美しい校舎に二日間で3200名の来場者を集め、大成功と相成った。

生徒達は日頃の授業や研究、部活動の成果を存分に発揮してくれた。中でも、体育の授業で行われていた創作ダンスの発表では会場也大盛況。また、数ヶ月前からこの日のために練習を重ねていたビジネス科3年E組女子生徒の日本舞踊も観衆から温かい声援をいただくことができた。出演者も来場者も楽しめる素晴らしい企画であった。

昨年に引き続き行われた17日夕方の中夜祭では、カラオケ大会決勝や2009光星アワード（表彰式）が行われ、選考の

結果、今年度上半期に大活躍した吹奏楽部が見事栄冠に輝いた。全校生徒の顔写真を特大スクリーンに映写するという新企画も大好評。花火も打ち上げられるなど催し物も目白押しで、生徒達にとっても記憶に残る二日間であったことだろう。

各科の展示、各部活動による展示や模擬店、PTA主催のもちつき大会やバザーなど、大きな盛り上がりを見せた光星祭であったが、これもひとえに関係者各位のご尽力の賜である。この場を借りて謝意を述べたいと思う。また、何よりも積極的にイベントに参加して光星祭を盛りあげ、二日間を心からエンジョイしてくれた生徒達に



感謝の意を表したい。本当にありがとう。

来年度も、生徒・教職員・PTAが一体となり、地元の名物行事として地域住民に喜んで頂けるような文化祭を目指していきたい。



おはようございます

朝の一声運動



本校PTA会員の方々のご協力により、今年も朝の一声運動が行われました。今年は9月7日から11日までの5日間、集中的に行われ、多くの会員の方々にご尽力いただきました。朝の忙しい時間帯に大変ありがとうございました。

声をかけられた生徒達も普段とは違う光景に戸惑ってはいましたが、週の後半には笑顔で挨拶を返すようになっていきました。大きな声で挨拶を返すことに気恥ずかしさを感じる生徒たちも多くいるようですが、挨拶は社会に巣立つための基本です。また礼儀とは、身に付けるものというよりは「身に付く」ものなので、彼らにとって、挨拶が義務ではなく習慣となり、光星学院高等学校が挨拶と笑顔で溢れる学校になっていけばよいと心から願っております。



日本レスリング界を席巻するOB達 ー誰がロンドンへの切符を手にするのかー

10月26日17:00、計量当日。

例年であれば18:00に始まる計量時間は今年は一時間早い。2004年の埼玉国体ではまさに計量が始まろうとするその瞬間に、M6.8の新潟県中越地震が起こった。その大災害のあった新潟県で今から国体が始まる。過酷な減量を乗り越え、鋭い眼光を放つ者達が三々五々会場に集まる。東京から荒木田、葉澤、下屋敷がやってきた。金洵先生は教え子の少年チームに帯同しながら八戸から会場入り。

グレコローマンに出場する角は28日会場入りする。全選手計量パス。

10月27日、試合当日。

先陣を切って金洵先生がマットに上がった。指導者としての領域が大きく最近は全く練習していない。しかしながら、「天才金洵」の名にふさわしく派手さはないが一部の隙もない。玄人をうならせ、見事と言うしかない。続く下屋敷は昨年の学生チャンピオンで、今年大学を卒業したものの、ロンドンをめざして大学へ

残っている。その分だけ本物に近づきつつあり自信とともに勝ち残る。昨年、高校ナンバーワンの素質を謳われ、今年国士舘大学に入学した葉澤はチーム編成上、本来の階級より一階級上の84kg級での出場で厳しい闘いの連続であるが負けず。そして、昨日、世界選手権大会から帰国したばかりで連覇を狙う全日本王者荒木田が登場。すべてにキレが

ないが勝ち残った。フリースタイルが終わった時点で昨年に続き成年総合第一位、光星レスリングの独壇場である。

10月27日、グレコローマン。

OBの中でグレコに出場するのは、角だけである。昨年のこの大会は五位であり、まだまだ頂点にはほど遠いような気がしていた。しかし、今年、試合に臨む姿勢に雰囲気がある。接戦を次々にものにしていける。ここでも「光星魂」が頂点に光を放った。

金 洵 清 文 (光星学院教諭)
66kg級 優 勝
下屋敷 圭 貴 (ニュースデューリー)
96kg級 優 勝
角 功 介 (自衛隊体育学校)
74kg級 優 勝
荒木田 進 (専修大学)
謙虚120kg級 第三位
葉 澤 謙 (国士舘大学)
84kg級 第三位

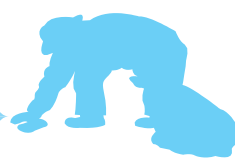
だれが、ロンドンで「光星魂」を放つか。



残っている。その分だけ本物に近づきつつあり自信とともに勝ち残る。昨年、高校ナンバーワンの素質を謳われ、今年国士舘大学に入学した葉澤はチーム編成上、本来の階級より一階級上の84kg級での出場で厳しい闘いの連続であるが負けず。そして、昨日、世界選手権大会から帰国したばかりで連覇を狙う全日本王者荒木田が登場。すべてにキレが



部活動生奉仕活動



当初、7月22日(木)に行われる予定であった部活動生による奉仕活動が雨で延期になり、10月19日(月)光星祭の後始末後に13:30~15:00実施となった。「日頃よりお世話になっている地域住民の皆様へ感謝の気持ちを込めて奉仕活動を行う」という趣旨のもとで、総勢270名の本校部活動生が一斉に校外へ飛び出した。

多くの生徒たちが通学で利用させて頂いている白銀駅より学校へ至る道路沿い、部活動でお世話になることの多い東運動

公園陸上競技場、そして国道45号線沿いなど、活動範囲は半径数キロにも及んだ。約1時間が経過し、心地よい疲労感と満足感と共に学校へ戻ってきた生徒たちの手には大量のゴミが入ったビニール袋が分別され、集まったゴミの量に誰もが驚きの表情を隠せなかった。

過去にポイ捨てをしたことのある生徒もいるだろうし、自分が以前捨てたゴミを拾い、都合の悪い思いをした生徒もいたかもしれない。だが、今回は皆が軽い

気持ちでゴミを捨ててしまったらどうなのか。今回の活動に参加した生徒達はそれに気が付いたのではないだろうか。また、集まった大量のゴミや、美しくなった街路を見て、「一致団結し、一つの物事に立ち向かえば素晴らしい結果を得ることができる」という事も感じる事ができたのではないだろうか。短時間ではあったが、この奉仕活動が生徒達の心に何かを促すものであった事を切に願う。



野辺地西高校

燃ゆる本能寺 野辺地の町を練り歩く

本校が野辺地町の夏祭りに参加して10年目を迎えた。夏祭り参加の意義は何よりも生徒と教師そして保護者がともに参加することができる所にある。その準備期間と当日の動きを追った。

今回のテーマは「燃ゆる本能寺」。6



月に山車小屋が建てられ、本格的な準備が始まった。しかし、今年の夏ははっきりしない天気が続き、準備があまりはかどらなかったようである。当日まで約2ヶ月をかけて生徒と教師が力を合わせて細部までの準備を進め、祇園囃子の女子生徒の練習も熱のこもったものとなった。保護者も当日に向けて事前に集まり、生徒の食事の準備を進めた。

祭り当日は天気もよく、いよいよ出陣の時を迎えた。

毎年の事ながら、沿道からはたくさんの方々の声援を受けていた。これが子供達の何よりの励みになる。生徒諸君の神楽太鼓を打つ手、

山車を曳く手に思わず力が入る。休憩時間には、保護者の方々が腕によりをかけた給食の時間。いつもながら手際の良さでたくさんの食事ができあがり、生徒達はおいしそうに頬張っていた。

野辺地の短い夏の最後を飾る夏祭り。教師、生徒ともに山車を曳いて汗をかき、素晴らしい笑顔の大切な思い出を経験したようである。

関係者は「参加して10年を数え、当時の写真や資料を見ていると、苦労したことが様々よみがえってきて、大変懐かしく思い出されます。何も分らず製作していたことなどが思い出されます。」と言ひ、また責任者は「10回目の夏祭り参加を安全に無事終えることができ、また、いろいろな場面で参加し、協力いただいた方々に、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも更なる飛躍を胸に頑張ります。」と述べている。

躍進めざましい本校のサッカー部は来年度の東北プリンスリーグ2部への来季昇格を決めた。

高校サッカーは選手権やインターハイが重要な目標の大会であるが、各地区のプリンスリーグも重要な大会として注目されている。県単位のユースリーグ（1部・2部）から東北プリンスリーグ（1部・2部）へと上を目指しての戦いが続く。特に東北プリンスリーグは県より厳しい戦いの場になり、各県の強豪が出場しており、技量向上の格好の機会である。

本校サッカー部は今年度県ユースリーグの1位となり、東北プリンスリーグ2

サッカー部 東北プリンスリーグに昇格！

部への入れ替え戦の出場を決めた。

9月15日の入れ替え戦において東北2部の光星学院高校を破り、東北2部への来季昇格を決めた。

初の東北2部昇格を決めて関係者は喜んでいるが、東北プリンスリーグ1部もその先にあり、更なる高みを目指して一層熱を帯びた練習に部員は励んでいる。



ロボットコンテストで全国大会出場へ



先頃、ロボットコンテスト競技県大会が9月5日、五所川原工業高校で開催された。今回のテーマは金太郎ロボットと熊ロボットを作り、二台のロボットが合体して30度の傾斜の坂を登り、直径25cmのパイプを倒し、それを橋にして渡ったりするもの。

その競技内容は年々複雑になってきている。本校では製作にあたり、部品の調達には以前のロボットで使ったモーターやギア、ラジコンのキャタピラ等使いそうな物を選び、ものづくりクラブのメンバーでアイデアを出し合い、坂を登れるか、橋を渡れるか、各セクションでトライしては作り直しの繰り返しで、時間が過ぎていった。

夏休み明けには、パイプの中を通過する二年生チームの「へりくつ1号」、パイプをまたいで渡る三年生チームの「コンパネ09号」の2台を作り上げた。

県大会では、各セクションのコースが二組作られて、参加16台の大きさ・重さの検査があった。各チームのロボットを

眺めると、他校のものが工夫の凝らされたものやアルミ製であるのに対し、野辺地西のロボットはベニヤ板の木製で、単純な作りであった。

「へりくつ1号」はパイプの中を通過する唯一のロボットで、アイデア賞の候補になるが、坂を登れず予選落ち。「コンパネ09号」は予選2回戦で、故障で失格したものの、対戦したロボットも転倒失格し、1回戦の成績だけで幸運にも予選通過を果たした。決勝トーナメントでは、対戦チームのロボットはあまりにも高性能すぎて進めず、堅実に我がチームのロボットが進んで勝利した。

その結果、3位となり全国大会の出場権を得た。顧問もメンバーも驚きの結果となった。

帰りのバスの中で、クラブのメンバーは今までの苦労や失敗したことを反省し合い、全国大会への対策を考えていた。

八戸短期大学附属幼稚園

熱いハートで子どもたちとパワフルに！！

本園には、男性教員が二名います。
八戸短期大学幼児保育学科を、一
昨年と今春卒業のフレッシュマン。
熱いハートとパワーを、本人の文章
でお届けします。



成澤 友信

幼稚園の教師になって二年目を迎え、子どもたちと共に、充実した楽しい毎日を過ごしています。一年目に比べると、日頃の保育にも自信を持って取り組めるようになりました。

子どもたちが色々な友達と関わることができるように願って、同学年担当の先輩教師の保育を参考にしながら、毎日の席替え活動を取り入れたり、降園時には時間の許す限りゲーム遊びを展開し、自分で考えたゲームを時々試してみたりするなどして、子どもたちとの時間を楽しんでいます。

昨年は初めてのことで、自分の力不足を痛感する辛い日々でした。でも、今は、子どもたちを見守ることや保育を行うことに、充実感と楽しさを強く思う毎日です。これからも、子どもたちとの関わりを大切に、自分自身も学び続けながら、日々努めていきたいと思っています。

山中 千裕

附属幼稚園に勤務して、一番強く感じたのは、「子どもたちのパワーがすごい」ということです。

子どもたちのパワーは無限大で、毎日驚かされています。幼稚園でたっぷり遊び、2時過ぎに降園して、その後さらに園庭でたっぷり遊んでいるのです。

「2時のお迎えで帰ったよね?」、と時計を見ると5時近いのです。本当に、びっくりしました。

運動会や夕涼み会、お泊り会などの行事でも、その圧倒的なパワーが遺憾なく発揮されています。

私も、子どもたちのパワー以上にパワフルに、これからも頑張っていきます。



リトミック大好き！



子どもは生まれた時から様々な音を聴いています。お母さんの声をはじめ周囲の音にも敏感になります。少しずつそれが何なのか理解していかうとします。幼児期も置かれた環境で様々な音を聞きながら過ごします。元来、備わっている内に秘めた感覚的なもので無理がなく無意識に洗練していかうとします。

たとえば、小さい子でも歌やリズムを聴くと自然にリズムに合わせて腰を振ったり、真似て歌おうとしたりします。楽器など見たらもうじっとしておれず、音を出して鳴らしたり

触ったりと自分で確かめたいという傾向にあります。また手を叩くと一緒に手を叩いたりします。そのようなことが日々の中でたくさんでき行われています。

動くことが大好きな子どもたち。ピアノのリズムに合わせて動きます。歩くような速さだったり、早い速度、ゆっくりテンポ、また「音がなくなったら止まるよ」など、疲れを知らないそれは楽しそうです。「動物になりましょう」

「みんなが水だったら、どんな風にする」子どもなりに精一杯なりきろうとする姿は自分から向かう気持ちになっています。形作ろうとせず感じるままに動くから子どもらしさが表れる素朴なものではないのではと思います。あまり“難しい”レベル”だけにとどまる雰囲気をも少し出すと何か子ども



は「ちがう」「いやだ」になるように思います。

音楽は技術そのものだけの指導ではなく、発達の吸収するエネルギーなど基本的に子どもに備わっているゆえに日常的に子どもが経験できるように努めたいものです。そうして育ったことにより、いつの間にか音楽についても深く関係し、よい方向へと導いていくように思います。将来の音楽への精神性は、子どもが子どもらしく過ごしたこの幼児期に大きく関わるのではと思います。



第二しなのめ幼稚園



絵本をとおして育てること・育つこと



お天気のよい日の園庭に、四、五人の子ども達が輪になってしゃがんでいます。なんだろうと覗いてみると、幼虫です。「大きくなったら飛んでいくんだよ」「顔があるんだよ」口々に幼虫の様子を見ながらも虫の命を感じているようです。「いつか読んだはらぺこあおむしみたいだね」言われてみるとよく似ています。エリックカールの「はらぺこあおむし」は子どもにも大人にも人気の絵本です。絵本は、日々の生活の中で、お家の方や先生などに読んでもらうことで、子ども達が、普段の生活で体験していくことを、魅力あるひとつの物語りとして、語りかけてくれたり、ころころ・ゆらり・す

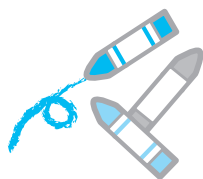
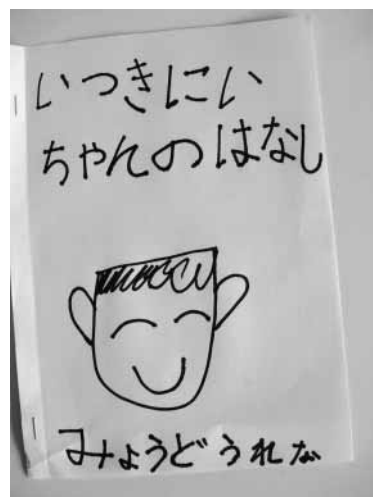
るするなど擬態語や、言葉のリズムまでも楽しませてくれるものです。時には「読んであげる」と三歳児から声を掛けられひざの上で絵本を広げ表情豊かに聞くことも私たちには楽しい時間です。

当園では、絵本の貸し出しをしています。その中で、たくさんの絵本を読んだり、読んでもらったりしながら子ども達は自分でお話を作る楽しさにも気づいているようです。

二学期、年長児の保育室の中に小さな紙を数枚綴じておいてみたところ、手作り絵本のコーナーが人気を集めていました。自分の兄妹の事をつづったり、想像のお話、オバケのお話と、何ともゆかいな子ども達の

絵本づくりへの楽しい思いが伝わってきました。このことから絵本は聞いたり話したりすることのお手伝いかもしれませんが、読んだり書いたりすることのおもしろさも知らせてくれるということをあらためて思っています。

絵本を読んだり、聞いたりすることとおして、自分の気持ちを表現したり、それを受けとめてもらう喜びを体験しながら、話すこと、聞くこと、書くこと、描くことそして、お話の世界の登場人物と一緒に喜んだり楽しんだりしながら少しずつ、思いやりやいたわりの心も育てていきたいと思っています。



防火パレードで火の用心



びわの幼稚園では、10月19日(月)から25日(日)まで、県下一斉に実施される秋の火災予防運動の一つとして、地域住民の防火意識を高めるため、恵まれた天気の中で幼年消防クラブ員による防火パレードが行われました。

幼年消防クラブは昭和59年10月に結成され、翌、昭和60年に第一回目の町内防火パレードに参加して以来、

今年で25回目のパレード参加となりました。

パレードは、野辺地町役場前での年長児による鼓笛隊演奏。赤いベストとベレー帽姿の園児達はそれぞれ担当する楽器を手にご父母の方々、町内の皆様の前で緊張しながらも立派に演奏を行ない

ました。

役場前からセレモニー会場までの約1 km間の防火パレードでは、鼓笛隊の後列に防火の半纏をまとった拍子木隊(年中児)が整列し、ビデオ撮影をするご父母とともに、「火の用心・・・カチ、カチ」、「火の用心・・・カチ、カチ」と元気に声を合わせながら拍子木を打ち鳴らし防火意識の高揚に努めました。

そして、野辺地町町長が待つセレモニー会場では鼓笛隊演奏を披露したほかに、実際に放水する消防ポンプ操法訓練、年中、長児全員による防火の誓い宣言など小さな半纏と、ヘルメット着帽の消防服がきびきびと会場内を走り回り、「放水はじめ!」の号令とともに勢い良く放水される水、「放水やめ!」、「はい!」、「よし!」等の歯切れの良い発声から、多くの保護者の方々、町内の皆様から暖かい言葉をいただきました。

最後に、町長さんからもお褒めの言葉をいただき、今、流行している新型インフルエンザにかからないようにと激励を受け、25回目のびわの幼稚園幼年消防クラブ員による防火パレードが終了しました。

パレードに参加した園児達は、町長さんからいただいたおやつ袋を手には誇らしげに笑みを浮かべておりました。



八戸短期大学

光華祭



第15号表紙

八戸大学 学生祭

第29回八戸大学秋桜祭が、10月31日(土)・11月1日(日)の2日間開催された。今年のテーマは『八大 Revolution! ～Let's make waves ～』今までより活気ある学園祭にし、これを皮切りに八戸大学を更に発展させていこうという意味を込めたテーマで開催した。



学院キャンパスだより第15号

発行 学校法人光星学院

編集 学院広報編集委員会

〒031-8566 青森県八戸市美保野13-98

TEL 0178-30-1411

URL <http://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>